

臨床研究「卵巢成熟奇形腫切除後の対側異時性発症について」

筑波大学附属病院小児外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

日本小児外科学会悪性腫瘍委員会の集計によれば、小児の卵巢原発の胚細胞腫瘍のうち成熟奇形腫が約70%と最多である。成熟奇形腫は良性であり、将来の卵巢機能や妊孕性温存のためにも、腫瘍核出術を選択することが多いが、卵巢頸捻転に伴う急性腹症で発症し付属器切除に至る場合がある。さらに、術後長期の合併症として、核出術後の同側再発、対側異時性発症の報告が散見される。また、稀ではあるが卵巢成熟奇形腫の悪性転化による再発を念頭におく必要がある。このように、卵巢成熟奇形腫は良性であるものの、その外科治療の選択と術後経過観察には注意が必要だが、その方法は一定でない。当科で経験した卵巢成熟奇形腫をまとめ、対側異時性発症例に関して検討し、初回手術方法の検討と長期的な経過観察の方法を確立する。

② 研究対象者

当科開設以来、小児外科で治療した卵巢成熟奇形腫患者さんを対象とします。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2023年6月30日まで

④ 研究の方法

診療録を用いた後方視的方法で行います。

⑤ 試料・情報の項目

診療記録等から以下の項目を検索します。

- ✓ Demographic data: 発症年齢、性別、原発部位（右・左・両側）、初経の状況（術前にあり・術後に発来・初経の遅れなど）
- ✓ 初回到卵巢頸捻転の合併の有無
- ✓ 初回の治療法：腫瘍核出術・付属器切除など
- ✓ 経過観察期間
- ✓ 同側再発の有無
- ✓ 対側異時性発症の有無

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

研究責任者名：増本幸二

所属：小児外科

役職：教授

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合

など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：小児外科 担当：新開統子（病院登録医）（秘書：萱原香織）

電話：029-853-3094

対応可能時間：平日 9～17 時